

4

福井県福井市

福井市立至民中学校

■クラス数／14 クラス
 ■生徒数／412 名
 ■建築主／福井市
 ■所在地／福井県福井市南江守町 65-20
 ■敷地面積／約 33,000㎡
 ■建築面積／11,149㎡
 ■延床面積／11,135㎡ (体育館 2,720㎡)
 ■構造・規模／RC 地上 2 階建
 ■施工期間／2006 年 10 月～2008 年 2 月
 ※クラス・生徒の数値は平成 22 年 3 月末現在

学年を超えた交流、学び合い 教え合う環境が生徒を育てる

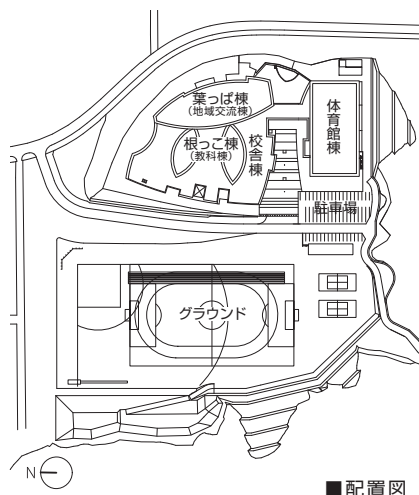
世代継承をコンセプトに、上級生が下級生の模範となる交流の場を作り、教科センター方式の学びやすい環境を整備、学びのサイクルの好循環を生み出す。



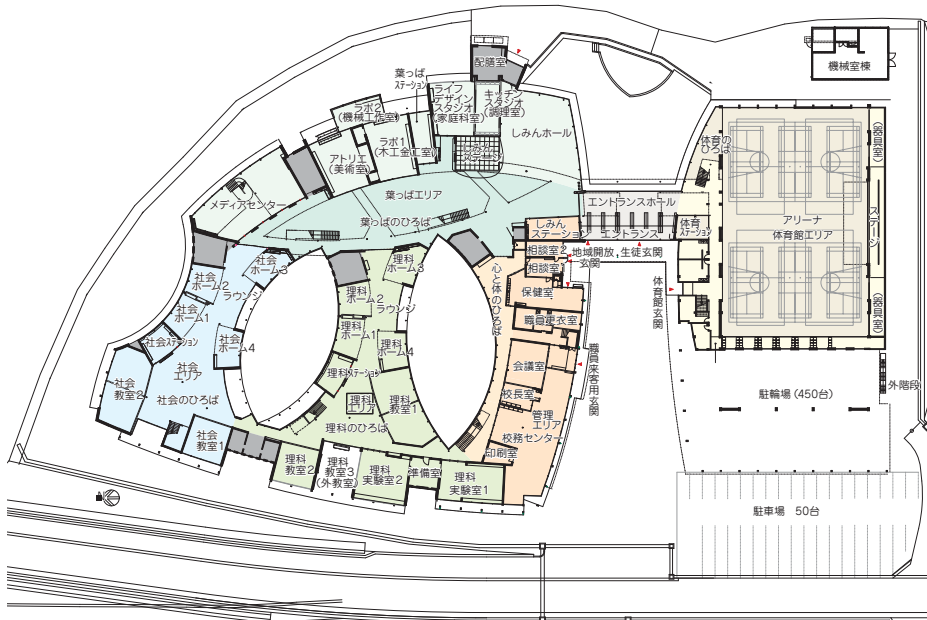
空間と連続した中庭

計画に見られる 指針改訂のポイント

1. 多様な学習内容、
学習形態による活動が
可能となる環境の提供
2. 理数教育環境の充実
3. 家庭・地域と連携した
施設の充実



■配置図



■1 階平面図

多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供 「先輩と後輩、教師と生徒の“壁”も取り払うオープンスペース



1 異学年が集うホームベース



3 ホームベースの中心にある交流の場「ラウンジ」



2 英語ひろばで教師と話し合う生徒

校長の視点から

学年を超えた協力を生む、開放感のあるホームベースの配置

本校では、教科センター方式を導入していますが、各学級の朝の会、帰りの会、給食などを行うホームベースの配置に特色があります。各学年1学級ずつのホームベースを集めて異学年のまとまりをつくり、これをクラスターと呼んでいます。合唱コンクールやマラソン大会などの学校行事では、クラスター単位で活動することがあります。(写真1)

教科エリアごとの特色を生む施設配置

各教科エリアでは、教科ごとに特色ある運営がなされ、生徒の学習意欲が高まるように、教科の教材や作品を用意しています。教科エリアには教科ステーションがあり、そこには教科専任の教師が常駐し、生徒は気軽に質問や相談に訪れます。これにより、学びのサイクルの好循環が生み出され、学習成果も高まっています。(写真3)

教科ごとの交流を深め、学習に活かす「教科のひろば」

教科ごとに配置されたのが、オープンスペース「教科のひろば」です。教科の授業は、教室と廊下の仕切りをオープンにして、「教科のひろば」に出て授業することもあります。他の学年やクラスターの生徒が刺激を受けたり、お互いが見たり見られたりすることで教科研究が深まるという効果が生まれています。(写真2)

理数教育の充実のための施設
「充実した観察・実験のための理科教室の計画」



4 実験観察器具を取り揃えた理科のひろば



5 屋外実験に利用される屋外理科教室



6 開放的な理科教室



7 先生との交流を深める理科ステーション

教職員の視点から

理科への関心を深めるための
実践的な施設配置

理論上の考察と事実を見極めるための実証実験、時間軸を長めにとった観察を行うスペースなど、理科教育のために2つずつの理科教室と理科実験室のほか、屋外理科教室を配置しています。さらに窪地を利用した畑スペースでは植物を育て観察しています。屋内の教室ではできない授業が、生徒たちの理科への関心と興味を喚起するのに役立っています。(写真4～7)

生徒と地域住民が交流する
「葉っぱエリア」

アプローチ空間と連続したアリーナは、地域の社会体育活動に開放されています。また、「葉っぱエリア」には、アトリエ、ラボ、ライフデザインスタジオ、キッチンスタジオなどに加え、展覧会ができる広場があり、地域開放ゾーンとなっています。「葉っぱエリア」では、地域住民や近隣の高校生・大学生の展覧会や鑑賞会、講習会などが催され、生徒たちは大いに啓発されています。(写真8～10)

〈設計者の視点から〉

- ◎未来を見据えた学びのあり方をテーマに、大小に可変する連続教室、掲示板やホワイトボードになる間仕切り、多様な掲示・展示に対応する壁・天井などを工夫しています。(写真1、2、3)
- ◎異学年型クラスターを中心とした多様な協働活動を可能にする空間構成として、4つのホーム空間をオープンスペースのまわりに配置し、教科エリアや地域開放ゾーンへゆるやかに連続させています。(写真1～7)

家庭・地域と連携した施設の充実 「地域の暮らしや文化活動に開放された空間を計画」



8 葉っぱホール(音楽室)で講習会を行う市民



9 葉っぱエリアの吹き抜け空間



10 アプローチ空間に面し、地域に開放されるアリーナ



11 地域にもよく使われるしみんホール

◎計画時には、生徒・教職員・地域に分かれたワークショップを実施しました。このワークショップから生まれた、学校が地域のコミュニティセンターの役割を果たすとの考えを考慮し、エントランスの近くの「葉っぱエリア」には地域交流のためのしみんホール、しみんステーションや体育館であるアリーナを配置しています。(写真8～11)

(設計/設計工房顕塾)

検討委員会委員の視点から

多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供の観点から

各教科でのグループ活動や異学年集団による活動など多様な学習活動に対応したオープンスペースが確保されている。

理数教育の充実のための施設の観点から

生徒の理科への学習意欲を高めるため、理科ひろばや理科外教室、畑スペース等を

整備するなど実験、観察等が実施しやすい空間を充実させている。

家庭・地域等と連携した施設の充実の観点から

アプローチ空間と連続した位置にアリーナを配置し、玄関に近い位置にアトリエ・キッチンスタジオ、ホール等を一体的に整備した地域交流のための葉っぱエリアを配置するなど、生徒と地域住民等との交流空間が訪問者の利便性に配慮し計画されている。